

山行報告書

京都田辺山友会

報告者 中島 貞夫

山名	北アルプス 燕岳 2763m	山行名	個人山行
ルート	長野県穂高町宮城—中房温泉—燕山荘—燕岳 往復		
山行日	平成 26 年 1 月 4 日～6 日	天候	晴れ時々曇り
参加者	リーダー：中島貞夫 サブリーダー：佐坂茂美 染矢つや子、徳田幸子		



山行報告

- 1/4 京田辺 4：20—宮城 9：30—中房温泉 15：00 泊
- 1/5 中房温泉 7：10—第1ベンチ—第2ベンチ—第3ベンチ—合戦小屋 11:00—燕山荘 13：15—14:10—燕岳 14:50—燕山荘 15:40 泊
- 1/6 燕山荘 7：20—中房温泉 10:00—10:30—宮城 P 14:00—京田辺 20:00

京田辺を早朝に出発して穂高町の駐車場に予

定より早く到着したので、今日の宿泊地の中房温泉までは気持ちはゆとりがあったが、少し残雪のある 13km の林道歩きは長かった。今日で正月営業は終わりなのか宿泊者はわれわれ以外は 3 名の若者だけでひっそりとした館内は冷え冷えとした感じがした。小雪が降った中を歩いて冷えた体を温泉で温めることができたので暖かく寝られた。

今朝は青空が見える最高の天気で、燕山荘からの連絡でも山は上天気とのことでアイゼンを装着してスタートする。踏み跡をたどって登っていきと若い下山の人とすれ違うようになり、中年、老年の人と変わるとほとんどの下山者が降りたようだ。風もなく木漏れ日にあたると暖かく感じる。



富士見ベンチを過ぎると遠くの山々が見えてきて、後ろに富士山が八ツ岳、南アルプスの間に大きく見える。西北の大天井の右から大槍が少しずつ上がってくる感じで見えてくる。合戦小屋を過ぎると正面に燕山荘と右に燕岳が見え、もう少しで到着だがここで息切れがしてきて休みやすみで登る。尾根筋まで上がると北アルプスの北端から南まできれいに確認でき最高の景観である。小休止して燕岳へ空荷で登って、風もない頂上でゆっくりと周りの山を眺めて戻る。燕山荘の正月営業も 5 日までののか宿泊はわれわれだけ、館内は静かで食堂のテーブルも積み上げてある。テント組みが 2 つの静かな小屋周辺。だが冷気は厳しいなかを雲ひとつない西空に

槍ヶ岳から笠ヶ岳、双六岳の稜線を赤く浮かび上がらせて太陽が沈んでいくのを見られたのもラッキーとしかいえない。

4 人だけの食事、お神酒のサービスで気分も良くなって休憩室の暖かなこたつに入ってテレビを見ていると、眠くなって動く気がなくなる。寝るのもゆったりとしたがやはり寒かった。

6日朝、回りの山は雲で隠れているが上空は晴れている、風もあるがきつくはない。東の空の雲の中から太陽が浮かんでくるように急に陽が射してくる。7時過ぎ、小屋を後にして稜線を慎重に、ゆっくりと下る。下りは早く合戦小屋に着き、1枚脱いで身を軽くする。昨日のしんどさが嘘のようで中房温泉には早く下山、ここからの林道歩きに備え準備して歩く。

少し雪が降ったのか路に積もっている中を13km、長かった。ケガもなく無事下山できた。天候に恵まれて最高の山行が出来たと思う。

感想文

佐坂茂美

今年度は色々な山行に挑戦してきた。沢登りも初めての体験であり、入会歴の比較的浅い会員さんを誘ってのテント泊山行。又2度目の西穂—奥穂縦走もやってきました。その為の岩登りのトレも何度か実施しました。今回のような本格的な雪山は2度目の体験でした。一度目は登山学校での硫黄岳でしたが、この時は天候も悪く視界はゼロで余り雪山登山の好印象は残っておりません。

中島さんをお願いし冬山初級レベルでの燕岳山行を決定して頂き心躍りました。然しながら不安もあり1週間位前から毎日、天気予報の確認、3000m付近での予想気温、ヤマレコでの山行記録等を調べました。

どうも本番当日の天候は曇・晴れの予測でしたが標高2900m付近での予想気温は氷点下17℃、風速も毎秒16～17mとの予測でした。従って、登頂時の体感気温は相当低くなると覚悟しておりました。

本番当日の地上での天気は予報通り。駐車場に車を止め、中房温泉まで凡そ13kmの歩行。舗装道路のこの長さにはさすがに、ウンザリしましたが、どうにか宿泊先の中房温泉に到着。殆ど貸切り状態での熟睡は快適でした。

翌日、中房温泉を出発し第一ベンチ、第二ベンチ、第三ベンチ、富士見ベンチ、合戦小屋と順に通



り抜ける、森林限界を超えると天気予報とは全く異なる雲一つない「日本晴れ」とも言える程の真っ青の空に無風状態。これには大感謝でした。白坂でのトレを思い出し、しっかりとアイゼンを効かせ、ピッケルで安全をしながら高度を上げて行きました。最後の急途、合戦尾根で4人の間に距離が出来ました。一足先に燕山荘に到着し後続の3人をみているとどうも体調不良のようです。到着後に尋ねると“高山病?”だったかも知れないとの由。日頃の強靱な人もその日の体調によっては高山病に襲われる事を知りました。

どうにか4人とも到着、小屋の手続きを済ませ空身で燕岳山頂までのザレ場ルートを一ピストン。イルカ岩もみましたが、写真撮影を忘れてしまいました。

頂上では360°を見渡しなが、あれが大天井、常念、八ヶ岳、富士山、笠ヶ岳、鷲羽岳、穂高、槍ヶ岳等々を中島さんから教えて頂き、快晴、無風状態で360°の大展望には大満足です。他の季節では味わえない感動を覚えました。

小屋帰着後は何時もの通り“一杯、一杯複(また)一杯”—李白の“山中対酌”より—を楽しみました。

翌朝下山時の高度感のある合戦尾根は慎重に、ハの字でしっかりと足許を確認しながらのアイゼン歩行でした。昨日のルートの折り返しで気持ちは楽でしたが、私だけがストックを使わず、ピッケ

ルだけでの安定補助・確保は十分ではない事に気付き途中からはストックに切替えました。

最後の第二ベンチあたりからのルートは格差のあるステップも要求され、シンドイ思いをしました。中房温泉に到着。一息入れ、その後に続いた駐車地までのあの舗装された13kmは堪えました。

同行頂いた3名（私を含めれば4名）は天気予報も覆す「晴れ男と晴れ女」の先輩に感謝します。お陰様で大満足の雪山山行となりました。

